

■ 11月祭参加

合唱の夕

- 京大音楽研究会
第22回定期発表会
- 協演 * 奈良女子大
* 京都工繊大
* 堀川高校

Heimat

■ 11月24日(土) 6:30p.m.

京大ホール

挨拶

京都大学教養部長 木村 作治郎

京都大学が新制度に変わった年に音楽研究会が結成され爾来10年余の年月がたちました。この間に作曲、器楽、声楽等誠に広い分野にわたって勉勵がつづけられ毎年研究発表会や卒業記念演奏会が催されて来ました。先輩の中からは原田君のような一流の音楽専門家も出ています。

音楽研究会の過去10年余をふりかえってみますと器楽も声楽もソロが主であったと思われますが、結成初期には山県弘忠君（現農学部農学教室助手）が中心となり合唱を盛んにやっていたことを記憶しています。しかし京大合唱団が別に結成されたことも影響して、音楽研究会の方では合唱に力を入れずにすごして来たようです。ところが昨年から音楽研究会メンバーのうち十名余の人々によって合唱グループが誕生し、精勵努力の甲斐あって、今年は団員40名以上に成長しました。ただに量的のみならず、質的な向上に目覚しいものがあります。厳しい練習の中にも楽しさを忘れず、チームワークの良さを最上の誇りとしています。文化祭を機会に過去二年間の精進の結実を発表したいと考えて、この計画をいたしました。

京都工芸繊維大学、奈良女子大学及び堀川高等学校の合唱団が賛助出演して下さいて錦上花を添えて下さる御好意に対し深甚なる感謝の意を表します。

この四つの合唱団の今後一層の御精勵と御発展を祈りますとともに御來会の皆様の絶大なる御支援を御願いたします。（音楽研究会顧問）

ハイマートマネージャ 滝 沢 宏 一

皆様ようこそおいで下さいました。今日第1回発表会をもつことが出来ましたことも皆様の御支援のおかげと感謝しております。

ハイマートとは「ふるさと」「我が家」といった意味で文字通りこの合唱団は私達40余名のハイマートであり、また団員がすべて京大生から成るということにもハイマートという感じがいたします。音のハーモニーはむしろ、団員間のハーモニーに重点を置き両方のハーモニーあってこそ、真の合唱の喜びを味わえ得るものであることを私達は体で感じっております。

今日の第1回発表会をひかえて、夏は舞鶴の松尾寺で合宿を行い、1日6時間の練習にも弱ることなく、フォークダンスを楽しみ、全員702mの青葉山に登り、美しい夏の若狭湾を下に見て大声を張り上げたヴァイタリティーを持ち、10月以来今日まではほとんど昼休みのみを利用し私達学園生活で可能な範囲で第1回発表会をめざして、すべてを打ちこんで来ました。

この成果を皆様に聴いていただき、忌憚のない御批評をいただければ、さいわいでございます。

最後に、賛助出演に快く応じて下さいました京工繊大、奈良女子大、堀川高校各合唱団はじめ、関係各位にあつくお礼申し上げます。

作品紹介

流浪の民

シューマンの文学的というより音楽的傑作です。ポピュラーな曲ですがポピュラーの名の下に、人間の持つ豊かな超時代的な感覚が看過され勝ちです。この曲の前へ前へと動いていく音楽的な姿勢は最初ピアノ前奏の数拍で、はっきりと暗示されます。表面的には *litardand* と *a tempo* の繰り返しですが、陰に躍動し続ける立体的な動きが有ります。合唱の技術の未熟によってはそれらの大事な要素を表現しにくいと思いますが、この合唱の目的はあくまで、それらの要素です。

—古賀泰子記—

天地創造

ハイドン自ら感興と感激によって晩年に書いたオラトリオです。合唱は「天地創造」の第一部の終曲である「御空は語る神の榮譽」の部分です。今度の合唱では三部のソロの所を声の釣合いからソプラノ二人、テナー、バス各一人としました。初めはかなり落ちついたテンポですが、ソロで少し緩やかになり、ソロが終るところで *a tempo* の合唱部が急速に突き上げてきます。終りの辺りは一段二段と速度を増し、華麗壮麗な終局に至ります。言葉は「Die Himmel erzählen die Ehre Gottes」と「Und seiner Hände Werk zeigt an das Firmament」の二文に終始します。

—古賀泰子記—

三つの山の詩

この曲は、中田浩一郎の「ともしび」「祭り」「わかれ」という3章からなる物語的な詩「三つの山の詩」に作曲されたもので、石井欽の1957年の作品だそうです。石井欽は、本年来日したドイツの作曲家カール・オルフに師事されたことのある日本の著名な作曲家の1人です。

I、ともしび 山は緑にくれて ひかり映す湖 岸辺にさざめく波の音 全ては深い闇に沈む

II、祭 り 今宵祭りだ 湖祭りだ 燃えろ かがり火

III、別 れ 朝のひざし明るく 湖とおく輝くとき 山の娘はいとしい人と別れゆく

—かえらぬ愛を

—今津浩一記—

いかるがの

いかるがの さとのをとめは よもすがら きぬはたおれり あきちかみかも

会津 八一（「南京新唱」、斑鳩村にやどりて）

初秋のおとづれを日本風な旋法に託しました。演奏時間2分にも満たない、自分の作品と称するにはあまりにも小さなこの曲は、1952年ばくが地方の高校で合唱団にいた頃のノートに記してあったものです。今回の演奏にあたっては、技術的な面で数箇所訂正をしましたが、音楽内容そのものは変わっていません。曲はA-A'-Bという構成を2回反復するもので、Bはテキストでいえば末句「あきちかみかも」に対応します。A(A')の部分が多声的な処理によってはたおりの感じを出し、これをBの和声的部分が静かに受けとめます。

—千秋次郎（京大音楽研究会OB）記—

プログラム

— 第 一 部 —

I ハイマート

ヴォルガ下り
アレルヤ歡喜はあふれ
天地創造

ソプラノソロ
テナーソロ
バスソロ

指揮 古賀泰子
ピアノ 川隅裕子

ロシア民謡
J. S. Bach 作曲
F. J. Haydn 作曲

大岡 茂子 藤原 聖
林 哲介
滝沢 宏一

II 堀川高校・音楽部

指揮 工藤勝史
ピアノ 宮永蓉子

III 奈良女子大・音楽部

指揮 船渡紀子
ピアノ 大橋詔子

IV みなさんに歌を

指導 益子 務

— 休 憩 —

— 第 二 部 —

I ハイマート

三つの山の詩
ともしび
まつり
別れ
いかるがの

指揮 今津浩一

石井 歆 作曲
中田浩一郎 作詞

千秋次郎 作曲
会津八一 作詞

II 京都工芸繊維大学・男声合唱団

指揮 伊藤 元
指揮 川村 了一

III ハイマート

夢
流 浪 の 民

ソプラノソロ
アルトソロ
テノールソロ
バスソロ

指揮 古賀 泰子
ピアノ 川隅 裕子

R. Schumann 作曲
R. Schumann 作曲

大岡 茂子
高橋 節子
沖吉 和祐
滝沢 宏一

IV 合同演奏

ハレルヤ・コーラス

指揮 古賀 泰子

G. F. Handel 作曲

賛助出演校紹介

奈良女子大・音楽部

私達音楽部は部員80名余りのこじんまりしたクラブで、月曜日は先生のもとで、金曜日はリーダーのもとで2時間ずつ練習しています。サークルボックスと呼べるものがなく、音楽室を借りてやっているのですが30名ほどの部員も文化祭前までは、なかなか親しくなれませんが、練習には熱心に顔を出しています。これぞと思う女生合唱曲が少ないのが頭痛のタネで、選曲委員はいつも苦勞しています。

女生合唱曲の甘さ幼さに時に反撥しながらも練習にはげんでいます。今日は中田喜直作曲のものばかり集めてみました。童謡の方は夜明けから夜までの組曲になっています。地理的環境もあってか、これまであまり外の空気に触れる機会に恵まれませんでしたので、今日も不安と期待の入りまじった複雑な気持ちでおりますが、部員一同一生懸命です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

京工繊大・男声合唱団

叡山を仰ぐ校庭のかたすみで生まれたこの合唱団も今年で6年の歩みを続けて来た事になります。毎年秋の定演をしめくくりとして練習その他の行事を行って来ました。工科系の学校なのでコーラスが男声となるのは必然的な形ですが、今年は1・2回生を中心にして少数ながらしっかりとまとまっております。音で創造する、これが僕達の願いです。

堀川高校・音楽部

私達合唱団はドブ川と悪評高きこと堀川の畔に昭和23年末の現高校創立と同時に結成され現在に至っています。当時は全国的にみても珍らしい音楽コースと共に歩んだこの合唱団も昭和26年4月の同コース分立以来独自の力で歩み続けてきました。

現在練習は月・水・金曜日の放課後2時間行っていますが、一向に進歩の気配が見えず指揮者を困らせています。でも指揮者の一糸乱れぬ？統制のもとに一生懸命ゾウギンを裂く様な金切り声と、純浪花節調のうなり声を発しその部費の安さと共に校内の名物となっています。この合唱団は校内第二の規模と秀才部員の多いことを誇り、数多くの先輩をこの京大に送っています。

今日ここに高校でただ一校、その京大の学園祭に賛助出演させていただいた事は誠に感激に堪えません。部員一同有らん限りの美声をふり絞って頑張るつもりです。

ハイマート・メンバー

マネージャー 滝沢 宏一(工2)

指揮 古賀 泰子(理2)

今津 浩一(経4)

ピアノ 川隅 裕子(理2)

ソプラノ

今林 万里子(文2) 大岡 茂子(文2) 鈴岡 宏子(薬1)

田村 彰子(文1) 藤原 聖(薬1) 宮後 紘子(薬1)

アルト

清原 東代(文1) 白石 俊子(文1) 高橋 節子(文3)

滝川 喜代子(薬2) 三野 昭子(薬1) 山本 尚代(理1)

山内 幸(医1) 吉田 邦子(理1) 桶井 純子(文1)

テノール

大木 秀夫(教4) 大塚 岩男(工1) 沖吉 和祐(教1)

川部 哲(経4) 杉本 隆成(理1) 田中英次(工3)

仁科 亮三(工1) 林 弘二(工1) 林 恒徳(文3)

林 哲介(理1) 村井 忠司(理1) 山内 拓男(法3)

バス

青塚 剛志(理2) 太田 喬夫(文1) 大場 洋介(教1)

高橋 正剛(文2) 高木 徳治郎(工院) 高橋 正剛(文2)

高松 健(経3) 滝沢 宏一(工2) 竜見 敏敬(理2)

田中 恒夫(法3) 辻 和郎(理1) 野口 隆(法1)

野口 直樹(工1) 古川 良茂(農1) 宮口 公秀(工3)

プログラム (補)

— 才 — 部 —

Ⅱ 堀川高校・音楽部

夕やけ小やけ
復雲雀の活
聖史歌曲
自然に於ける神の栄光

草川 信作曲

F. Mendelssohn 作曲
P.I. Tchaikowsky 作曲
Beethoven 作曲

Ⅲ 奈良女子大・音楽部

I 中田喜直女声合唱曲集より

1. おもいさ
2. 忘れなぐさ
3. 夏の思い出
4. 雪のふるまを

宮深 木 正 清
尾 須 磨 子
江 間 章 子
内 村 直 也
作 作 作
詞 詞 詞

Ⅱ 中田喜直童謡曲集全曲

1. もりのよあけ
2. もんしる蝶々のゆうひんやさん
3. きんさんきんぎょ
4. はなのくにのきしゃぽぽ
5. 夕方のおかあさん
6. 豆っこ打ち
7. お月さんと坊や

与田 進 一
サ ト ウ ハ □ ー
小 林 純 ー
小 林 純 ー
サ ト ウ ハ □ ー
結 城 ぶ ち ー
サ ト ウ ハ □ ー
作 作 作
詞 詞 詞
作 作 作
詞 詞 詞

— 才 二 部 —

Ⅱ 京都工芸繊維大学・男声合唱団

組曲「富士山」より 作品才彦、才武拾遺

河 童 昇 天
みずいろの風

指揮 伊 藤 元
草 野 心 平
多 田 武 彦
作 作
詞 詞

指揮 川 村 了 一
神 保 光 太
石 河 拓 郎
大 手 水 清
清 次 脩
作 作 作
詞 詞 詞